

・目的

INAS Global games 本番に向け、事前合宿で最終調整を行い、本大会では GK がチームを助け、勝利に導く事を目的に、技術面、精神面でのサポートを行った。

1. セービング 2. スローイング 3. コーチング

・成果と課題

セービング:

本大会で一番4年間の成果が出たのがセービングである。本大会の参加7か国の中でもフットサルの GK としてのセービング技術は野崎、岡本共トップクラスであり、チームのピンチを幾度となく救った。課題としていたミドルレンジからシュートを弾き切る事が出来なかった事や、ファーポストへのシュートに対するアプローチは、見違える程改善されており、観客を唸らせていた。また夏合宿にてブラインドからのシュートに課題が顕在化した為、対策として地面に手を付き、足の間からボールを見失わない様に見るポジションを急遽練習に織り込んだが、本大会で即体现し、難しいブラインドのシュートについても対応出来ていた。失点は多くしたものの、GK としては難しい場面も多々あり、GK コーチとして、4年間で習得したレベルでは、十分満足出来る内容だと思われた。但し、難しい失点でも GK が止めなければチームは勝てない為、今後はもう一段階厳しいレベルを要求する必要がある。彼らもそれに耐える技術、メンタリティをこの4年間、本大会で養えたので、次の4年後に向けて飛躍的に成長出来る様に教えていきたい。

・スローイング

大会では、相手の体格の大きさや強さ、オフェンスへのプレッシャーの強さから、チームとして GK から相手陣地へスローイングが効果的と判断し、クリアランスやカウンターの場面で多用する事になった。実際には得点に繋がるプレーもあり、ゴールを守るだけではなく、オフェンスへも貢献出来たと思われる。但し、スローイングの技術で野崎、岡本に差が出た為、出場時間を大きく分ける結果となった。野崎はフットサル経験も岡本よりも長く、スローイングが武器になっていたが、経験の浅い岡本はディフェンスに引っかかる場面や、ピッチの外に出てしまう場面が多く、チャンスを作れなかった。フットサルの GK のスローイングは、フィードの精度、状況判断が非常に重要になる為、今後改善と、より一層の練習の積み上げが必要になる。投げ方については2人共理解はしている為、今後の反復練習と経験で二人は大幅に成長出来ると考えられる。



岡本選手



野崎選手

・コーチング

コーチングについては会場の大きさからフィールドプレイヤーに通りづらい状況だったにも関わらず、2人共声が枯れるまで必死に指示が出来ていた。但し、チームを叱咤激励、鼓舞する事も大事だが、冷静に正確に伝えなければいけない場面で、言葉を連呼してしまう事で、情報過多になり分かり難くなり、フィールドプレイヤーに理解して貰えない場面があった。状況判断を的確にし、正確に伝える事も経験しなければ一朝一夕で出来る技術ではないので、4年間だけでは彼らにはまだ足りなかった。但し二人の声質自体は通り易く、フィールドプレイヤーには伝わっている為、試合経験を積み、コーチからも指示のポイントを適宜伝える事で改善を図りたい。コーチングのもう一つの側面として、チームを鼓舞しメンタル面でサポートした点でも、二人は大きく貢献出来たと思われる。常に声を掛け続ける姿勢は、この4年間で大きく変わったポイントの一つである為、継続して貰いたい。

・個別の成果と課題

【野崎】キャプテンとして、チームを引っ張り、セービング、スローイング、コーチング、メンタル面の全てで高い水準でプレーした。これはチームメイト・スタッフからの本大会の MVP に選出される結果で証明されている。地元の社会人チームへ所属する事で、高い意識を以て練習に取り組めた事が、技術力への大きな自信となり、プレーに繋がったと思われる。真面目で練習に真摯に取り組む性格も成長に大きく影響している。まだ経験は少ないが、年齢も若く体力的にもこれから充実出来る為、社会人チームでもコーチと共に経験を積んで、社会人チームでも自信を持ってプレー出来る様になれば、飛躍的な成長が見込まれる。今後も細やかに指導していきたい。

【岡本】4年間での成長率は、チーム全体でもナンバーワンだと個人的に思う。当初は体格、柔軟性には恵まれていたが、メンタルが弱く、技術の水準も決して高くは無かった。しかし、持ち前の負けん気の強さと真面目な性格と、ポテンシャルが飛躍的に成長させたと考えられる。特にセービングの成長は著しく、セービングの技術力は野崎を凌いでいた。メンタル面も非常に強くなり、失点の場面でも心折れる事無く、強い精神力でゴールを守っていた。今後も GK の知識や経験を突き詰め、GK として成長して貰いたい。

<総括>

本大会は2人の活躍は、4年間の短い期間の成長という視点で、本当に満足している。今後2人には継続して競い合い、日本のフットサル GK の技術の高さを証明し続けてもらいたい。失点を知らない GK は良い GK とは言えない。失点の仕方を知っている GKこそ、それを防ぐ術を身に付ける資格を持っているからだ。本大会での失点は2人を大きく成長させると思われる。今後も自分の知識、経験を全て伝え、全力で GK をサポートしていきたい。

